

[1 - 3]. 中心市街地の現状（地域の現状に関する統計的なデータの把握・分析）

富良野市の中心市街地は明治33年（1900）8月旭川・富良野間の鉄道開通と大正2年（1913）滝川・富良野を結ぶ下富良野線（現在の根室線）の開通により、造材事業が活発でJR富良野駅を中心として市街地の原形が形成され、商店街の周辺に住宅地が広がり、各種公共施設が集積している地域である。



（1）人口動態に関する状況

1）富良野市及び中心市街地の人口推移

富良野市の人口は昭和40年までは増加傾向にあったが、国鉄の再編、(株)ノザワ（石綿鉾山）の会社縮小により36,627人をピークに、昭和45年に急激に減少、昭和60年から緩やかな減少傾向で推移し、平成2年に対し平成22年は約9.0%の減少となっている。中心市街地は市内全体数値を大きく上回る15.4%の減少となっている。

【国勢調査による人口動向】

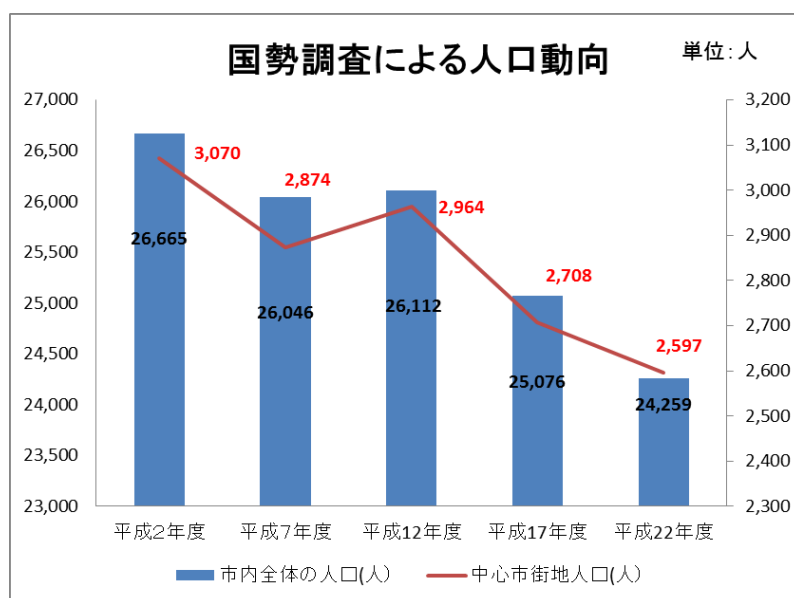
単位:人

	平成2年度	平成7年度	平成12年度	平成17年度	平成22年度
市内全体の人口	26,665	26,046	26,112	25,076	24,259
第1次産業	4,049	3,692	3,283	2,818	2,500
第2次産業	2,129	2,290	2,300	1,677	1,690
第3次産業	7,743	8,030	8,135	8,196	7,982
中心市街地人口	3,070	2,874	2,964	2,708	2,597
中心市街地人口割合	11.51%	11.03%	11.35%	10.80%	10.71%

（資料:国勢調査）

農業を基幹産業としている富良野市の国勢調査における産業別人口の1次産業は、平成2年

に対し平成22年は約38.3%の減少、建設・製造・鉱業の2次産業は約20.6%と減少し、市総体人口の減少要因と考えられる。



世帯数は昭和45年(1970)から緩やかに増加が続き、平成2年に対し平成22年は約12.4%の増加になっている。また、中心市街地では約13.9%の増加となっている。人口減少傾向のなかで世帯数が増加傾向にあることは核家族化の進展によるものと考えられる。

【国勢調査による人口動向】

単位：戸・人

	平成2年度	平成7年度	平成12年度	平成17年度	平成22年度
市内全体の世帯数	8,961	9,310	9,914	9,989	10,074
中心市街地世帯数	1,191	1,192	1,302	1,237	1,356
中心市街地世帯数割合	13.29%	12.80%	13.13%	12.38%	13.46%
中心市街地世帯員数(人)	2.58	2.41	2.28	2.19	1.92

(資料：国勢調査)

中心市街地の人口が一貫して減少傾向にあることは、生活の場としての中心市街地の性格が失われつつあり、コミュニティー活動や、その維持において大きな影響をもたらしているといえる。

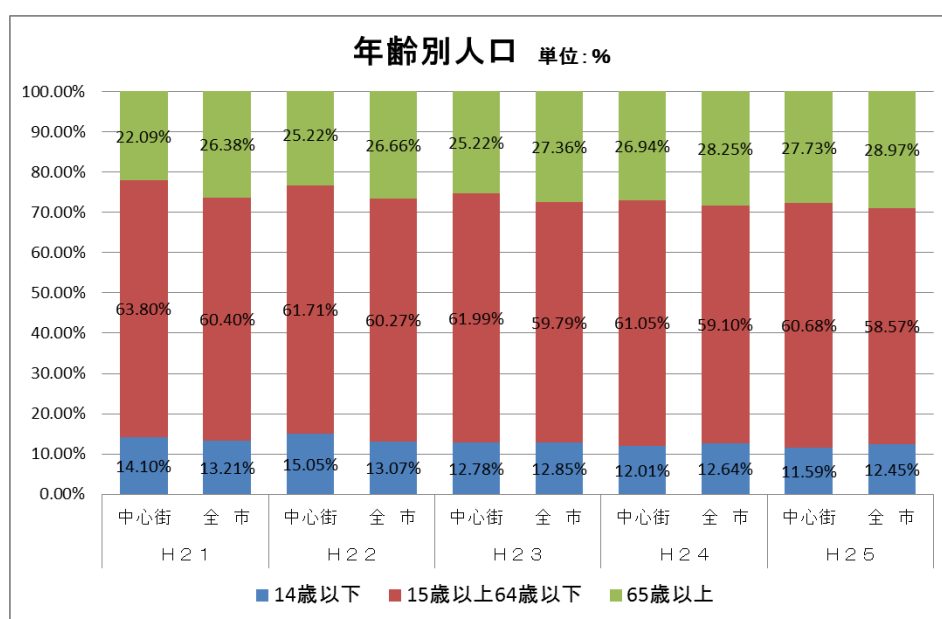
2) 富良野市及び中心市街地の高齢者数及び高齢化率の推移

富良野市では、年々高齢化率が増加している。平成21年の65歳以上の人口割合は26.4%と4人に1人が高齢者となっており、平成24年には1.9%増加し、28.3%となっている。

一方14歳以下人口割合を平成21年から平成24年と比較すると、人口割合が13.2%から12.7%と、3年間で0.5%減少し、微減ながら確実に少子高齢化が進んでいる。

中心市街地では、平成21年と平成24年の65歳以上のデータを比較すると約5.9%上昇し、同じく14歳以下の人口を比較すると、平成24年には2.1%の減少となっており、中心市街地での65歳以上の割合の上昇率が高く、中心市街地での高齢化が今後も高いポイントで進むことが考えられる。極端に表現すると、約3分の1世帯が高齢者世帯であるといえる。

人口の減少に加え高齢化率が高いことから、今後、健全な３世代間の地域交流増進が重要な課題となる。



(2) 中心市街地の土地利用に関する状況

1) 空き地・建設未利用地の現状

平成19年8月に行った中心市街地の現地調査による空き地、建設未利用地面積は中心市街地内に虫食い状態で、箇所数88カ所、面積にして21,556㎡点在し、中心市街地面積の4.3%の土地が有効に活用されていなかった。

中心市街地面積 770,000㎡

中心市街地内宅地面積 504,618㎡

※中心市街地内宅地外面積

・道路河川等敷地 216,980㎡

・JR敷地 48,402㎡

中心市街地内宅地面積	504,618㎡
空き地建設未利用地面積	21,556㎡
比率 %	4.3 %

中心市街地の居住人口増加に向け、まちなか居住の利便性や居住の付加価値を高めるために「まちなか居住推進会議」を組織（平成20年11月）し土地の有効活用に取り組んできた結果、平成25年6月に実施した現地調査では、88カ所の内24カ所が宅地として有効活用。面積にすると11,246.04㎡で、52.3%の土地が有効活用され始めたが、新たに22箇所、面積にすると7,130.32㎡の土地が空き地、建設未利用地として発生している。

結果、中心市街地では3.4%の土地が有効に活用されていない。

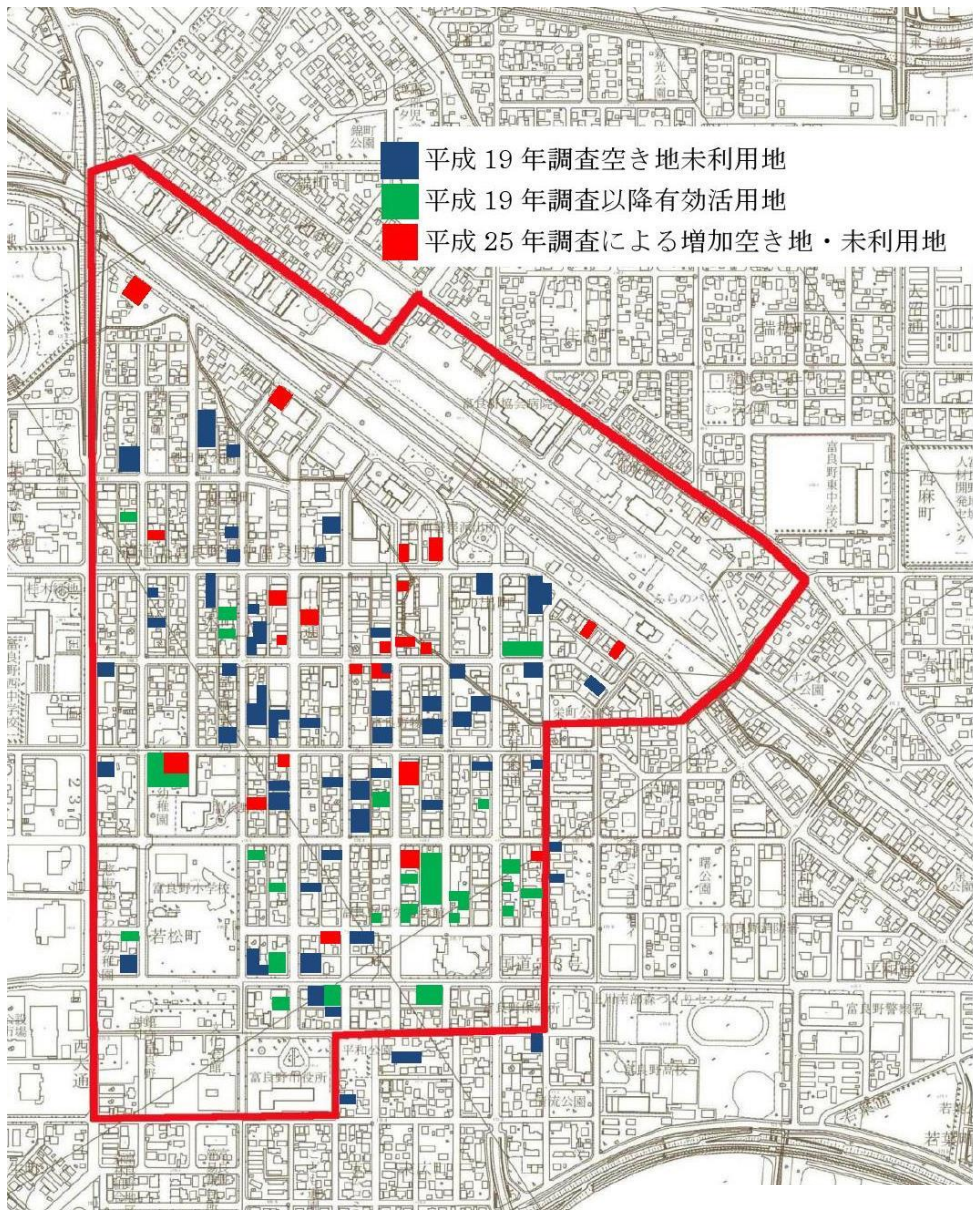
空き地、建設未利用地の発生は、土地所有権利者が土地の有効活用もしくは個人売買に消極的な原因として平成19年調査当時とかわらず

- ・郊外地と比較し、地価が割高
- ・土地所有権利者の高齢化

【中心市街地の空き地・建設未利用地面積及び箇所数】

	面積	箇所数	備考
中心市街地面積	504,618.00	—	
平成19年調査	21,556.00	88	
改善	▲ 11,246.04	▲ 24	
増加	7,130.32	22	
平成25年	17,440.28	86	
比率	3.46%		

の二つにあり、特に土地所有者の高齢化は、その多くが経済的に安定しており、月極駐車場などによる賃料収入は余剰的利益となっているうえ、土地売却による一時所得課税を敬遠し処分を相続者に委ねる傾向にあるため、建設意欲に乏しい状況にある。また、平成25年度調査において新たな空き地の発生は建築物の老朽化による解体が進んだ結果と考えられる。



2）富良野市全地域の地価公示価格の現状

富良野市全地域の地価公示価格は緩やかな下落傾向にあるなか、中心市街地における空き地、建設未利用地の増加は、地価下落率の落ち込みを郊外地よりも大きくさせる要因となっており、富良野市の税収の約46％を占める固定資産税、都市計画税の減収につながることから、健全な財政を維持する上で問題となっている。

単位：円

	中心市街地地区商業地			住宅地
	【日の出町7番3号】	【日の出町3番10号】	【幸町7番27号】	【末広町16番7号】
平成13年	90,000	38,800	59,000	30,200
平成14年	84,000	36,800	55,500	29,800
平成15年	80,000	36,000	52,500	29,500
平成16年	75,000	35,200	49,500	29,000
平成17年	68,000	34,000	47,500	28,500
平成18年	62,000	33,000	45,000	28,000
平成19年	58,000	32,000	42,800	27,000
平成20年	51,000	30,500	41,000	25,800
平成21年	46,000	28,700	41,000	24,800
平成22年	41,000	—	40,000	24,700
平成23年	37,000	—	38,700	24,600
平成24年	35,000	—	38,300	24,500
平成25年	33,500	—	38,300	24,400

(資料 国土交通省地価公示)
 注意 幸町7番27号地先の価格は北海道地価調査

◇中心市街地地価公示価格

商業地の価格（日の出町7番3号）

平成13年 90千円/㎡

平成25年 35千円/㎡

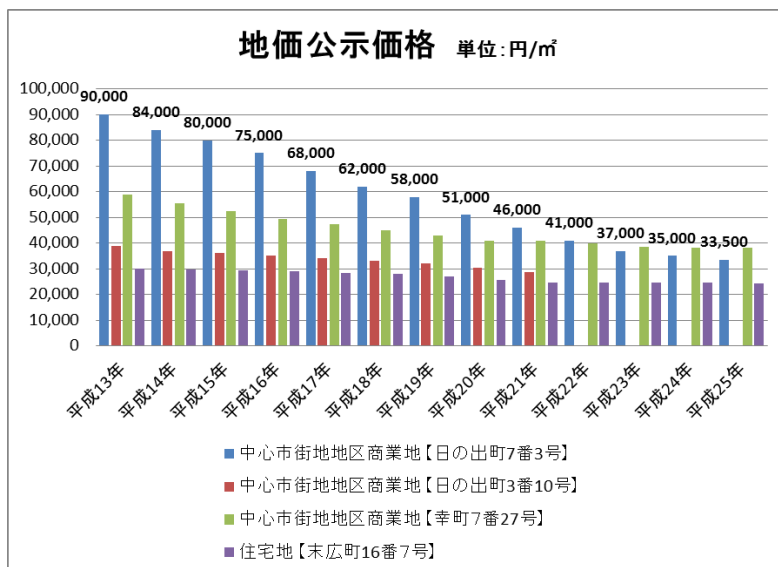
下落率 ▲61.5%

平成25年度の札幌国税局発表の最高路線価は「フラノマルシェ」効果によって周辺（幸町）の路線価は「横ばい」と発表され、さらに、市内不動産業者によると「同じ東5条通でも、JR富良野駅前付近よりも複合商業施設『フラノマルシェ』沿い（幸町7番27号）の方が若干高い傾向にある。」と最高路線価（下写真）報道に記載されている。

上川総合振興局管内市町村の殆どの最高路線価が下落傾向にあるなかで、富良野市幸町の商業地は平成24年、25年度横ばいと推移している。



札幌国税局が発表した平成26年7月1日時点の最高路線価によると、中心市街地（日の出町：5条通り）は2年連続横ばいながら、「フラノマルシェ」横の路線価が前年比3.4%（1,000円/㎡）上昇し、不動産関係者の分析では「中心部は中古物件が売れるなど、マルシェ周辺の開店した新店舗が活気をもたらしている」と報道された。



3) 住宅動向と居住ニーズの現状

富良野市内では、平成13年度から平成18年度にかけて毎年80戸から100戸程度の新築住宅建設があったが、平成19年、アメリカのサブプライムローン問題（以下「リーマンショック」という。）を契機に減少しはじめ、平成23年度は40戸の建設にとどまった。

平成24年度51戸、平成25年度52戸と増加しているが、これは消費税率増加前の駆け込み需要の影響によるものと考えられる。

中心市街地では、平成13年度から平成18年度にかけて10戸から20戸前後の建設件数があったが、全体に対する中心市街地での割合は約10%から30%と、低い数値で推移し、リーマンショックの影響で共同住宅の建設件数は減少している。平成25年度の中心市街地内での建設戸数が増加しているのは、富良野市東4条街区地区市街地再開発事業（以下「東4条街区地区再開発事業」という。）によるものである。

平成20年から平成25年の5カ年で、14棟の共同住宅（内1戸は東4条街区地区市街地再開発事業による介護付き有料老人ホームである。）が建設されているが、坪面積の小さな区画内で駐車場を完備したために住宅建設床坪を縮小し、入居戸数は49戸分となっている。

リーマンショックの影響があった平成21年から平成22年に専用住宅の建設件数が11戸から18戸と増加しているのは、平成21年から実施している「住宅リフォーム等助成事業（富良野市住宅改修促進助成事業）」（※注）による影響が考えられる。

車社会のなか、家賃が多少高くても、郊外地の駐車場付共同住宅への入居を希望する傾向であるが、ここ数年は中心市街地で入居戸数分の駐車場を完備された建設規模の小さい（床坪面積を小さく、たとえば、6戸→4戸）共同住宅の建設が多く見られるようになった。

【住宅建設状況】

年度	市内住宅 建設戸数	中心市街 地内建設 戸数
平成13年度	93	15
平成14年度	82	17
平成15年度	101	14
平成16年度	85	25
平成17年度	96	14
平成18年度	83	13
平成19年度	69	15
平成20年度	58	8
平成21年度	47	11
平成22年度	66	18
平成23年度	40	7
平成24年度	51	17
平成25年度	52	24

（資料 富良野市建設水道部都市建築課）

【住宅建設状況】

年 度	中心市街地建設戸数		
	専用住宅	共同住宅	合 計
平成13年度	10	5	15
平成14年度	10	7	17
平成15年度	6	8	14
平成16年度	11	14	25
平成17年度	6	8	14
平成18年度	4	9	13
平成19年度	13	2	15
平成20年度	8	0	8
平成21年度	10	1	11
平成22年度	18	0	18
平成23年度	3	4	7
平成24年度	11	6	17
平成25年度	21	3	24

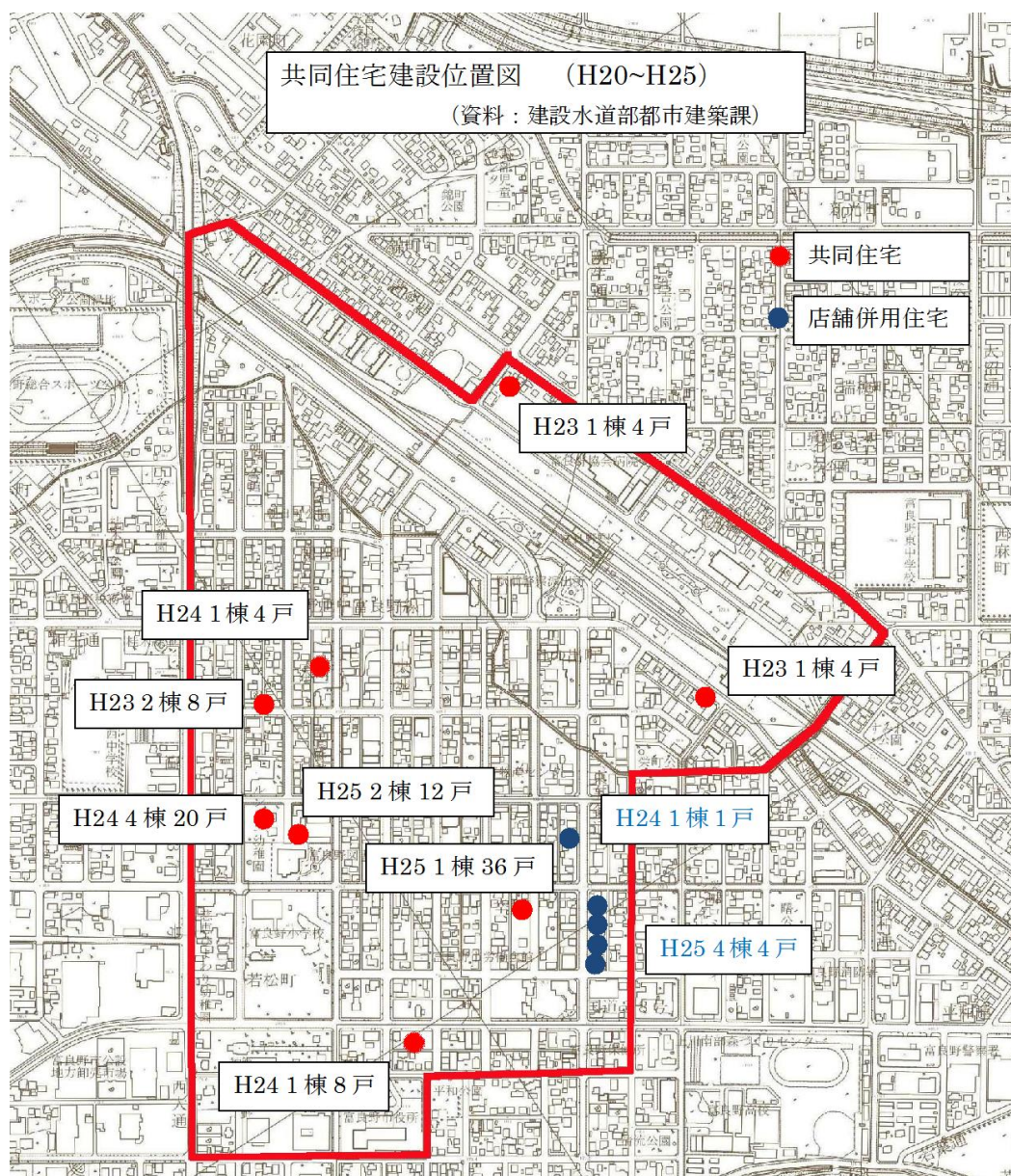
（資料 富良野市建設水道部都市建築課）

※注「住宅リフォーム等助成事業（富良野市住宅改修促進助成事業）」

期間：平成21年～平成23年

条件：リフォーム・耐震改修

概要：経費100万円以上に対し20万円を限度に助成（耐震改修工事を同時に行った場合に別途補助金加算される場合がある。）



しかしながら、地価が安価な郊外物件の建設も増加しており、まちなかの居住人口の減少の要因となっている。

民間住宅に比べ家賃が安価である公営住宅への入居希望は強く、一般世帯を対象とした募集においては、募集する空き室の建築年数でバラツキが見られるが、平成24年度は2.1倍を超え、平成25年度は約1.9倍という状況となっている。

【公営住宅応募状況】

	募集戸数	応募人数	倍率
平成20年度	20	241	12.05
一般世帯	15	155	10.33
単身者	0	0	0.00
高齢者	5	86	17.20
平成21年度	26	205	7.88
一般世帯	25	193	7.72
単身者	0	0	0.00
高齢者	1	12	12.00
平成22年度	22	115	5.23
一般世帯	19	81	4.26
単身者	0	0	0.00
高齢者	3	34	11.33
平成23年度	16	169	10.56
一般世帯	14	141	10.07
単身者	0	0	0.00
高齢者	2	28	14.00
平成24年度	14	286	20.43
一般世帯	13	275	21.15
単身者	0	0	0.00
高齢者	1	11	11.00
平成25年度	14	217	15.50
一般世帯	9	170	18.89
単身者	0	0	0.00
高齢者	5	47	9.40

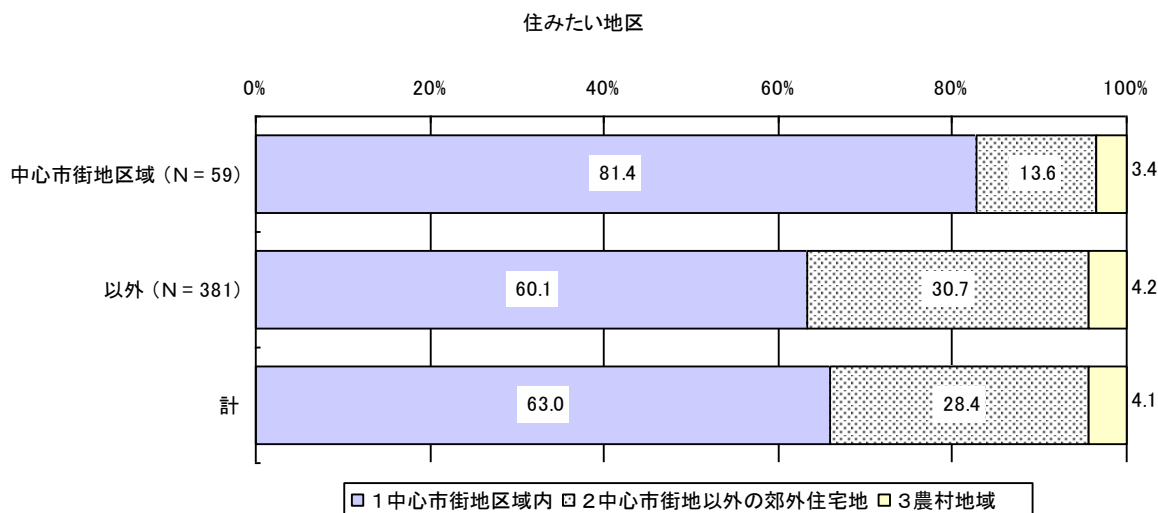
(資料 富良野市建設水道部都市建築課)

平成 25 年に実施した「富良野市中心市街地都市機能（魅力・創造）調査事業報告（平成 25 年 1 2 月）」による「街中居住ニーズ」結果では、

設問「住みたい地区について」では

全体でみると「中心市街地区域内」が 63.0%と最も高く、次いで「中心市街地以外の郊外住宅地」が 28.4%、「農村地域」が 4.1%となっている。

これを中心市街地地区とそれ以外の地区に分けてみると、中心市街地地区に住んでいる人は「中心市街地の域内で住みたい」が 81.4%、それ以外の地区の人の「まちなか居住ニーズ」は、60.1%といずれも高い。（※グラフ内の「N=」は母数を示す）

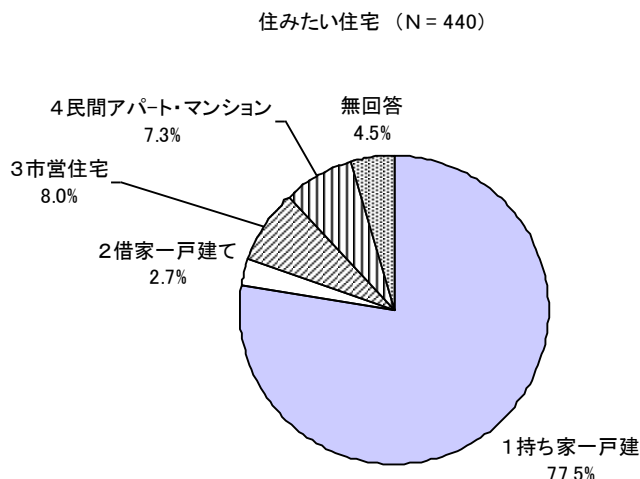


設問「住んでみたい住宅について」では

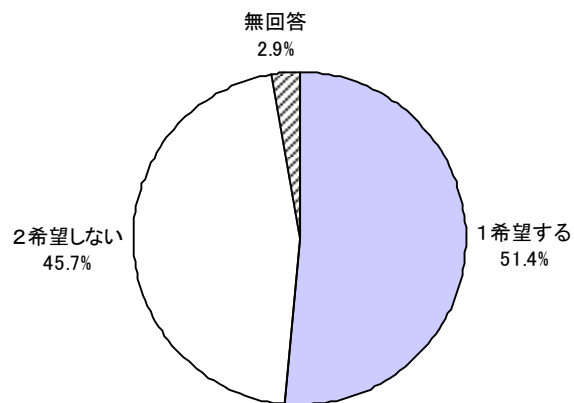
「持ち家一戸建」が 77.5%と最も高く、次いで「市営住宅」(8.0%)、「民間アパート・マンション」(7.3%)、「借家一戸建て」(2.7%)の順となっている。民間アパート・マンションへの居住については、「希望する」が 51.4%で「希望しない」が 45.7%と、ほぼ二分されている。希望する場合の居住条件は、「駐車場がある」が 54.8%と最も高く、次いで「2LDK 以上の間取りが必要」が 34.8%、そして「オール電化施設が整備されている」が 22.2%となっている。「その他」(38.5%)の内訳には「家庭菜園、庭付き」(7 票)、「収納が多い」(7 票)などがあげられている。

富良野市民がまちなかで住みたいというニーズを持っている割合は 63%あるが、「持ち家一戸建」が 77.5%と最も高く、集合住宅（市営・民間アパート等）は 15.3%となっている。

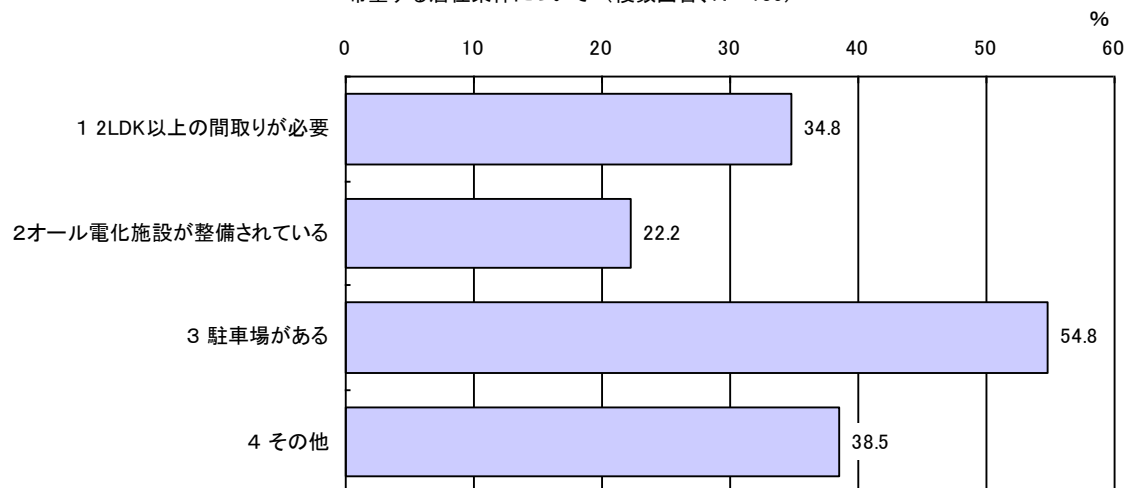
ちなみに、中心市街地で建設される共同住宅では 18 戸、介護付き高齢者賃貸住宅では、36 人がニーズに応えられることになる。



民間アパート・マンションへの居住について（N = 35）



希望する居住条件について（複数回答、N = 135）



4) 土地利用に関する現状について

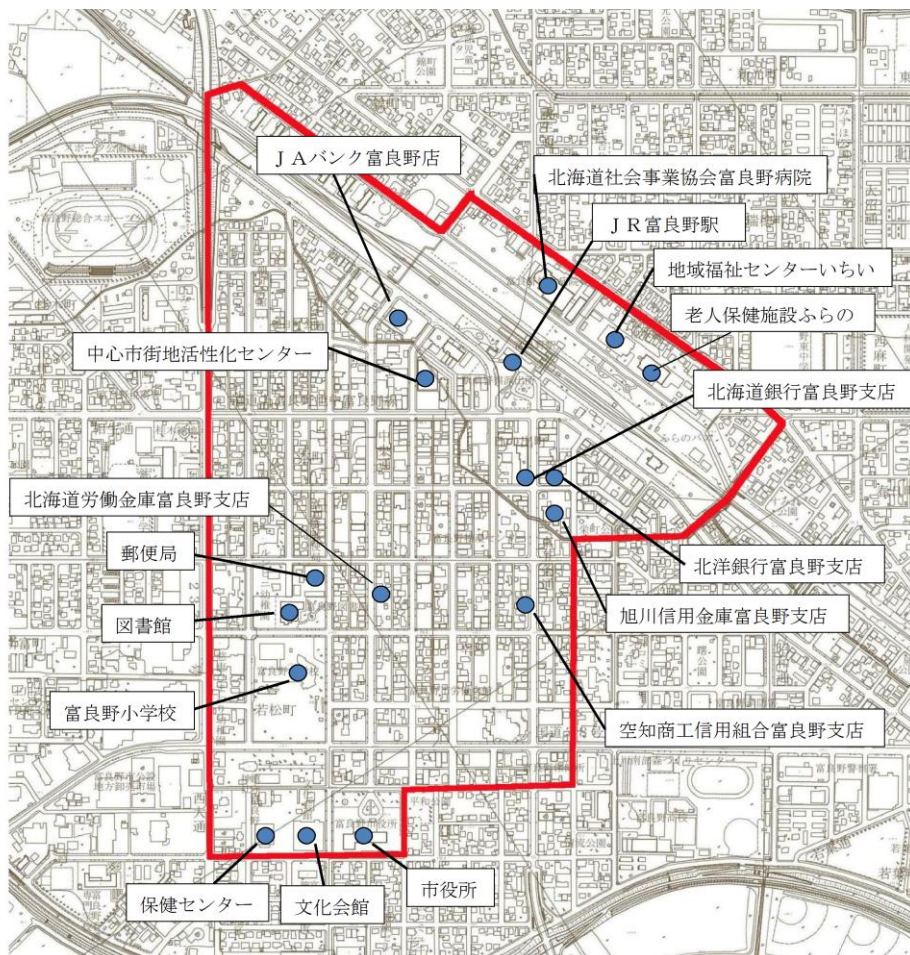
中心市街地内において、諸条件の希望合致が前提とはいえ、まちなか居住に対する潜在需要は多いものと判断できる。現状においてはまちなか居住人口が減少し続けていくと予測される中で、土地所有権利者の建設投資意欲を高め、まちなか居住の利便性や居住の付加価値を高めることによる居住人口増加に向けた、継続的な「まちなか居住推進会議」を組織（平成21年4月）しPRに努め活動を行ってきたが、折しもリーマンショックによる影響で、市内全体の建築件数が減少したが、中心市街地で点在している空き地や建設未利用地に共同住宅建設の動きが少し見られた。

空き地や建設未利用地の有効活用といった動きは問題解決に結びつくものとしてさらに活動する必要性がある。

5) 都市福利施設・公共公益施設の整備に関する状況

中心市街地内には、市役所、市立富良野図書館、日本郵政(株)富良野郵便局、文化会館、保健センターなどの公共公益施設が集積し、市民に公共サービスを提供している。また、富良野駅前地区土地区画整理事業と一体施行により施行された富良野駅前地区第一種市街地再開発事業により平成18年12月に完成した「富良野市中心街活性化センター（ふらっと）」は地域文化の交流活動支援や周辺に立地する商業の活動支援、さらには市民の健康増進支援の場となっている。

JR富良野駅東側には、道内8番目の地域医療センター病院の指定を受け、内科や外科など12科の診療を行う2次医療の中核病院「富良野協会病院」は、中心市街地の医療・福祉拠点として市民や近隣市町村からの利用の高い施設である。



【中心市街地の公共施設】

施設名	施設内容	H25 年間利用者数	設置年度
市立富良野図書館		107,172 人	H 3
富良野文化会館	大ホール・大、中会議室	84,581 人	S 4 6
富良野市中心街活性化センター「ふらっと」	地域交流ホール・プール 多目的トレーニング室	88,915 人	H 1 9
富良野保健センター			H 7
北海道社会福祉協会富良野病院	総合病院	247,201 人	H 1 9
地域福祉センター	ヘルプ・ステーション・デ・イ・ビ・センター	2,175 人	H 9
介護老人保健施設ふらの		39,677 人	H 9

6) 商業・にぎわいに関する状況

①商店街（会）・振興組合

富良野市の中心市街地は、J R 富良野駅を中心として5つの商店街（会）2つの振興組合が存在している。相生通商店街は富良野駅前地区土地地区画整理事業を機に高齢や後継者不足を理由に廃業する商店が多く発生、組合員減少から新相生商店街振興組合での商店街活動が行われている。

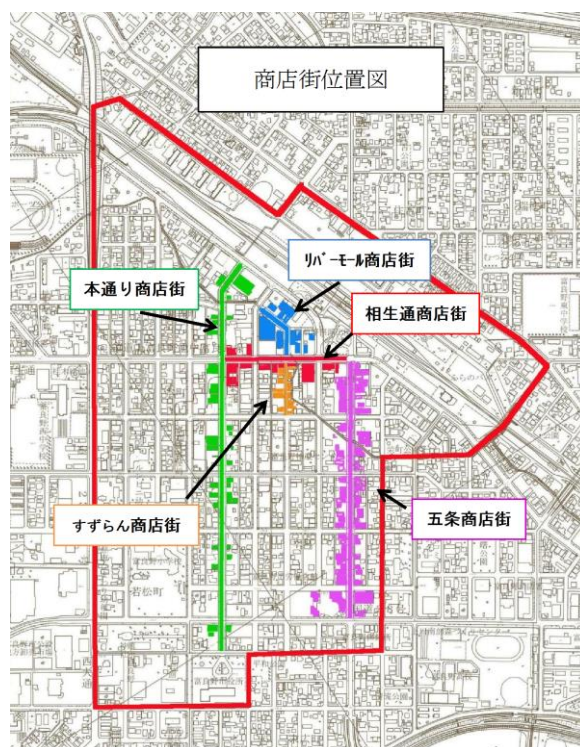
<商店街（会）>

商店街（会）名	店舗数
相生通商店街	1 9
五条商店街	6 3
すずらん商店街	1 2
本通り商店街	3 3
リバーモール商店街	1 9

<振興組合>

振興組合名	店舗数
新相生通商店街振興組合	1 9
富良野五条商店街振興組合	2 6

（※平成25年度 富良野商工会議所資料より）



②小売店数、従業者数、年間商品販売額の推移

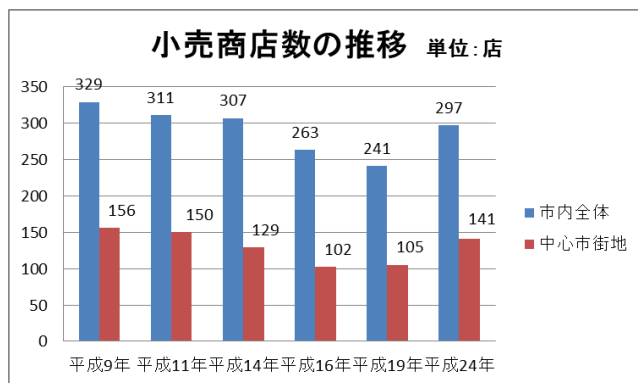
※「平成21年商業統計調査」は、「経済センサス」の創設により休止となり、総務省は平成21年に「経済センサス-基礎調査」を実施。この結果から、総務省・経済産業省では「平成24年経済センサス-活動調査」を実施し、この活動調査の中で商業に関する調査事項についても把握することになっている。この経過より、平成9年、平成14年、平成19年の商業統計調査の数値と平成24年の経済センサスの数値とは、調査方法や集計の仕方等が違っているため、本計画においては参考値ながらも比較数値として採用している。

(事業所数)

商業統計によると小売店数は、平成19年まで市全体、中心市街地ともに、平成9年に比べて減少していたが、平成24年には市全体、中心市街地ともに増加している。

小売店数については、市全体では、平成14年までは、ほぼ横ばいとなっているものの平成19年には平成14年に比べ約22%の減少。平成24年度には平成19年度の約12

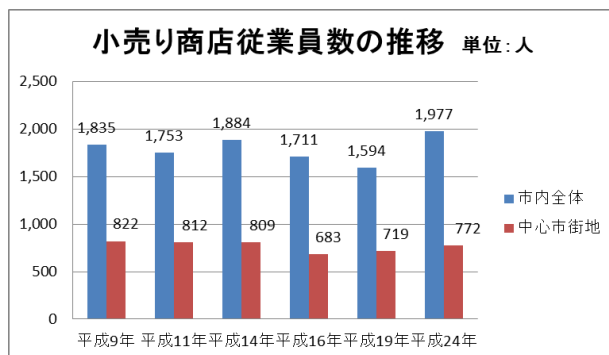
3%と増加した。中心市街地では、平成11年から平成14年にかけて約14%、平成14年から平成16年にかけて約21%の減少となっているが、平成19年は平成16年に比べ増加し、平成24年は、平成16年に比べ38%、と増加している。



(従業者数)

従業者数では、市全体では平成16年まで1,700人から1,800人前後とほぼ横ばいとなっていたが、平成19年には平成16年と比べると約7%減少し、平成24年には約24%増加している。

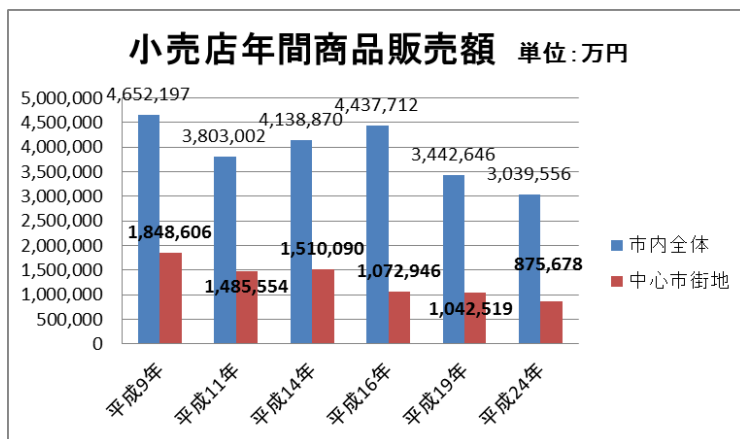
中心市街地では、平成14年から平成16年にかけて約28%の減少となっているが、平成19年には平成16年に比べ23%の増加。平成24年には平成19年に比べ約7%と増加と、小売り店舗数増加に比例し従業者数も増加している。



(年間商品販売額)

市全体の販売額については、平成9年に比べて平成16年の販売額は約4%の落ち込みであるが、中心市街地では大きく減少傾向が続いており、平成9年に比べて平成19年の販売額は、約44%の落ち込みとなっており、これは消費動向が近郊周辺中核都市の郊外大型店等へと変化しているものと思われる。

本市の中心市街地は市内全体に占める小売店数の割合では、中心的商業地を維持しているものの、平成11年度より空洞化の兆候が現れ緩やかな減退が続けている。



産 業 中 分 類 ・ 区 分		平成9年		平成11年		平成14年		平成16年		平成19年	
		市全体	中心市街地	市全体	中心市街地	市全体	中心市街地	市全体	中心市街地	市全体	中心市街地
小 売 業	商店数(個)	329	156	311	150	307	129	263	102	241	105
	従業者数(人)	1,835	822	1,753	812	1,884	809	1,711	683	1,594	719
	年間商品販売額(万円)	4,652,197	1,848,606	3,803,002	1,485,554	4,138,870	1,510,090	4,437,712	1,072,946	3,442,646	1,042,519
	売場面積(㎡)	36,408	15,855	35,093	16,533	34,740	12,513	32,885	11,496	30,923	13,004
	1店当売場面積(㎡/店)	111	102	113	110	113	97	125	113	128	124
	1店当販売額(万円/店)	14,140	11,850	12,228	9,904	13,482	11,706	16,873	10,519	14,285	9,929
	従業員1人当り販売額(万円/人)	2,535	2,249	2,169	1,830	2,197	1,867	2,594	1,571	2,160	1,450

産 業 中 分 類 ・ 区 分		平成24年	
		市全体	中心市街地
小 売 業	商店数(個)	297	141
	従業者数(人)	1,977	772
	年間商品販売額(万円)	3,039,556	875,678
	売場面積(㎡)	31,014	11,545
	1店当売場面積(㎡/店)	104	82
	1店当販売額(万円/店)	10,234	6,211
	従業員1人当り販売額(万円/人)	1,538	1,134

③歩行者・自動車車輛の通行及び交通量の推移

■富良野商工会議所による「富良野商店街通行量調査」(平成8年度～)より

調査日：毎年10月・第2金曜日調査

【歩行者通行量の推移】

単位：人

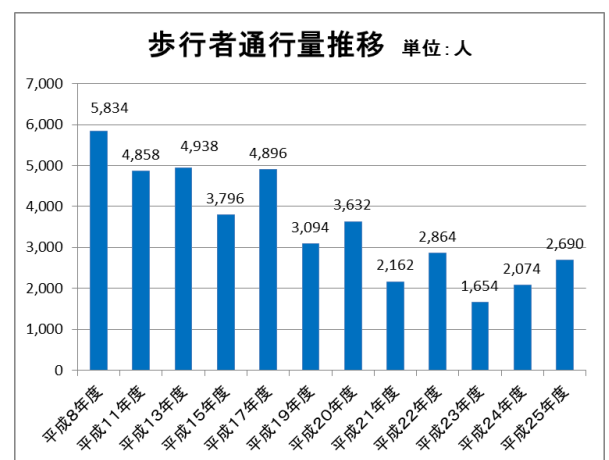
	平成8年度	平成11年度	平成13年度	平成15年度	平成17年度	平成19年度
相生商店街	2,350	1,890	1,902	1,654	1,848	1,028
すずらん商店街	788	506	486	320	364	314
本通り商店街	1,614	1,520	1,526	1,184	1,936	1,266
五条商店街	1,082	942	1,024	638	748	486
合 計	5,834	4,858	4,938	3,796	4,896	3,094

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
相生商店街	1,328	672	1,264	694	966	1,052
すずらん商店街	346	212	432	188	298	334
本通り商店街	1,264	770	466	296	298	432
五条商店街	694	508	702	476	512	872
合 計	3,632	2,162	2,864	1,654	2,074	2,690

毎年徐々に歩行者通行量は減少傾向にありながら、平成17年に歩行者・自動車車輛交通量が増加しているのは、平成14年にテレビ放映された「北の国から2002 遺言」の影響と平成15年4月より通年営業を開始した中心市街地の観光施設「北の国から」資料館の存在が大きく影響していると考えられる。

五条商店街の歩行者通行量が平成19年度に平成17年度と比較して、32.9%減少している要因としては、富良野協会病院の移転による影響が大きいものと考えられる。

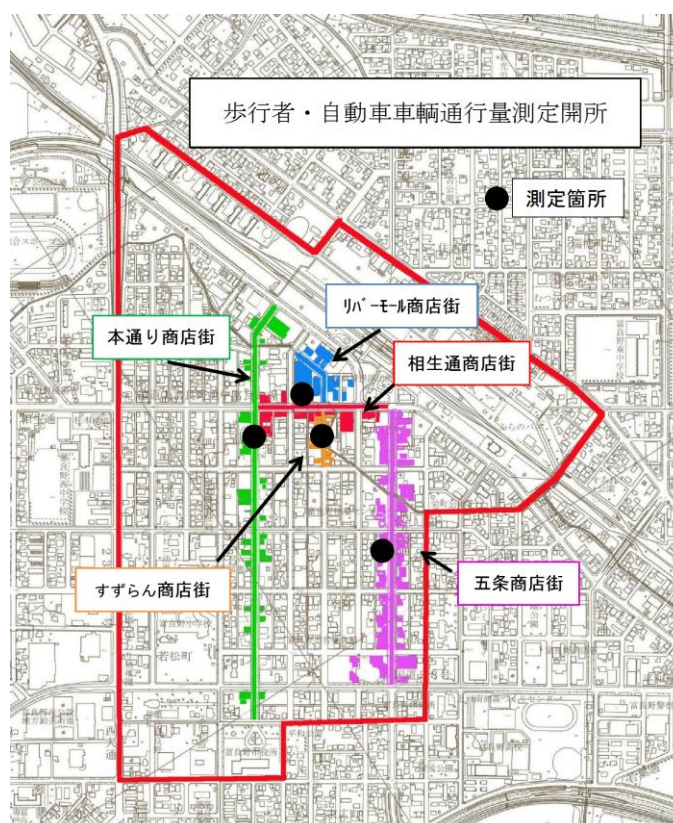
平成21年と平成23年の極端な減少は、平成21年が低温(10度)で強風、平成23年も低温(12度)降雨と、計測日は気象条件悪化による歩行者減少と考えられる。



平成21年以降本通り商店街の歩行者通行量が減少しているのは、商店街沿いで営業していた北洋銀行が5条通りに移転した影響によるものと考えられる。

自動車車両交通量調査結果をみると、各商店街通りの交通量は、歩行者通行量と比例し減少傾向にあり、なかでも五条商店街の車両の交通量は他の通りに比べ、平成19年度に平成17年度と比較して22.5%減と大幅な減少数値を示している。これは、富良野協会病院移転による影響と考えられる。

歩行者通行量調査において、平成21年（低温・強風）、平成23年（低温・降雨）の気象条件が悪いときには自動車車両交通量が増加している。市民は天気が悪いと自動車を利用し、中心市街地に来街するものと考えられる。

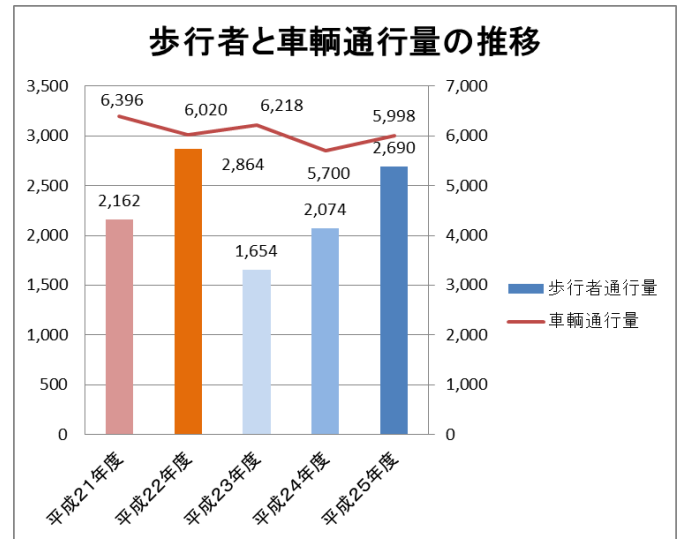
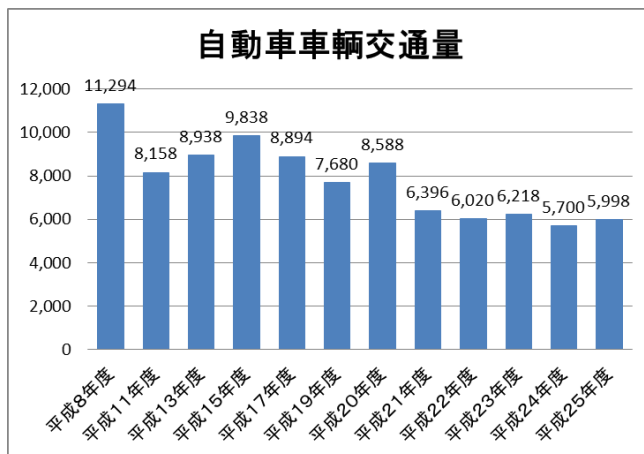


【自動車車両交通量の推移】

単位: 台

	平成8年度	平成11年度	平成13年度	平成15年度	平成17年度	平成19年度
相生商店街	5,832	3,884	4,076	4,674	4,070	3,882
すすらん商店街	638	364	522	484	370	382
本通り商店街	2,142	1,782	1,766	1,954	1,952	1,478
五條商店街	2,682	2,128	2,574	2,726	2,502	1,938
合 計	11,294	8,158	8,938	9,838	8,894	7,680

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
相生商店街	4,014	2,966	2,980	3,262	2,860	3,068
すすらん商店街	320	316	306	330	302	300
本通り商店街	1,692	1,060	910	634	812	864
五條商店街	2,562	2,054	1,824	1,992	1,726	1,766
合 計	8,588	6,396	6,020	6,218	5,700	5,998



平成22年、富良野商工会議所が「中心市街地商業動向調査」とあわせて、火曜日・日曜日を調査日として実施した「歩行者通行量及び自動車車両通行量調査」をみると、五条商店街では、沿道の金融機関が休む日曜日は歩行者が減少し、日曜日に比べ火曜日の歩行者量が多いのは、金融機関等、生活の日常的に利用する施設が集積されていることが要因であると思われる。また、積雪が多く寒冷地の本市においては、冬期間、日曜日の歩行者通行量は夏期の約50%以下の1,100人台まで減少する結果となっている。

また、積雪が多く寒冷地の本市においては、冬期間、日曜日の歩行者通行量は夏期の約50%以下の1,100人台まで減少する結果となっている。

H22 火曜日の歩行者通行量

単位:人

	8月10日	9月14日	10月8日	10月12日	11月16日	1月11日	2月15日
相生商店街	1,062	777	1,264	804	784	726	870
すずらん商店街	452	236	432	188	214	230	328
本通り商店街	462	431	526	448	462	579	499
五条商店街	869	676	702	658	508	652	572
合 計	2,845	2,120	2,924	2,098	1,968	2,187	2,269

H22 日曜日の歩行者通行量

単位:人

	8月22日	9月19日	10月8日	10月17日	11月21日	1月16日	2月20日
相生商店街	821	1,436	1,264	548	668	358	372
すずらん商店街	414	950	432	276	256	224	210
本通り商店街	724	1,105	526	413	501	298	209
五条商店街	580	1,213	702	465	466	320	338
合 計	2,539	4,704	2,924	1,702	1,891	1,200	1,129

備考 着色10月8日は毎年商工会議所で実施する金曜日のデーターを測定結果比較のため記載

日曜日9月19日は2連休(敬老の日)で、「ワインぶどう祭りinまちなか」開催日